

2025 朝日の社会福祉

令和7年度事業報告

2025年4月1日—2026年3月31日



THE ASAHI SHIMBUN
SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

はじめに

世界と日本を取り巻く情勢は、現在もなお不確実性が高いままです。地政学的な緊張の長期化や、気候変動に伴う自然災害の頻発、経済の先行き不透明感が家計や事業に影響を及ぼしています。国内では高齢社会の進展と少子化、地域間の格差拡大、子どもの貧困・孤立といった多くの課題があり、より一層社会福祉の充実が求められています。

こうしたなかで朝日新聞厚生文化事業団は、2025年度も助成事業をはじめとした多くの社会福祉事業を実施することができました。ご協力をいただいた支援団体や関係機関のみなさまに、心より御礼申し上げます。

2025年度は、子どもを応援する事業を刷新いたしました。昨今の社会的養護をめぐる環境は大きく変化しています。そのニーズの変化を捉え、様々な困難がありながら地域で暮らす子どもの高校就学を支援する「地域こどもつなぐ応援金」事業を新たに立ち上げました。同時に、2008年から続いている児童養護施設・里親家庭等進学応援金の新規募集を停止しました。そして、これまで進学応援金を受給している学生のみで実施してきた「ぴあ活動」を「ぴあ応援団」活動と名称変更し、活動を希望する全国の当事者にも参加してもらうなど、これまで以上に活動の幅を広げました。自立援助ホームで暮らす高校生に就学金や資格取得金を贈って学びを後押しする「まなび応援金」事業も制度変更を行い、「未来まなび応援金」事業にリニューアルしました。

また、能登半島地震の災害救援事業として、2025年度も「災害時大学ボランティアセンター支援」を行いました。

このほか、障害者福祉事業や高齢者福祉事業、東日本大震災の復興を支える事業なども手がけることができました。私たちのさまざまな活動全般につきまして、この事業報告書を通じて知っていただければ幸いです。

お互いに支え合い、だれもが安心して暮らせる社会を実現したい——。私たち朝日新聞厚生文化事業団はこれからもこのミッションを掲げ、福祉の向上につながる「地域づくり」「人づくり」「支援の輪の拡大」の三つの視点に沿って、積極的に活動してまいります。

今後とも事業団の活動への温かいご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2026年6月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

目 次

はじめに	1
社会福祉事業	
■ 児童福祉事業	
地域こどもつなぐ応援金.....	4
自立援助ホーム・子どもシェルター 未来まなび応援金.....	5
児童養護施設・里親家庭等進学応援金.....	6
ぴあ応援団 ぴあミーティング、ぴあ応援ブック、ぴあ応援ラジオ、Miomus、 すだちず、シェアセミナー、講演等への登壇.....	7
ぴあ応援団 全国奨学金団体交流会.....	10
ぴあ応援団 「自分を守るお金の知恵」.....	11
■ 障害者福祉事業	
にもにもフェス.....	12
ぴあラボフォーラム.....	13
精神疾患の親に育てられた子どもの立場のピアサポート.....	14
「発達障がい」とともに生きる 豊かな地域生活応援助成	15
第 42 回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	16
第 45 回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会／ 第 34 回九州車いすツインバスケットボール選手権大会	17
障がい児・医療的ケア児の親と就労.....	18
障がいのある人の就労支援事業.....	19
第 44 回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展	20
■ 高齢者福祉事業	
認知症フレンドリーキッズ授業.....	21
高齢者施設訪問事業「ゆうゆうビジット」	22

■被災地支援	
災害時大学ボランティアセンター支援	23
能登半島未来応援金	24
朝日のあたる家／東日本大震災へのご寄付	25
公益事業	
■福祉啓発・公衆衛生事業	
すくすくの森相談室	26
自殺予防公開講座	27
西部朝日福祉助成金	28
第 77 回保健文化賞	29
■チャリティー事業	
朝日チャリティー美術展	30
朝日チャリティー色紙展	31
第 75 回チャリティーコンサート「メサイア」	32
親子で楽しむクリスマスコンサート	33
朝日福祉ガイド 本・DVD	34
主な後援・協賛・協力事業一覧	35
収支／寄付報告	39
中期計画 2025	40
理事・幹事・評議員／職員名簿	45

事業の名称	地域こどもつなぐ応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
事業開始年度	2025 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	協力：全国児童家庭支援センター協議会、全国自立援助ホーム協議会、 家庭養育支援機構、特定非営利活動法人えんじゅ 協賛：公益財団法人原田積善会
事業の概要	様々な困難がありながら地域で暮らす子どもの高校就学を支援し、子どもと家族、地域、社会的養育の関係機関がつながり、子どもの未来を拓くための応援金です。 〈対象〉 次の(1)と(2)を満たす、20 歳未満の高校生（申込時点）。 (1)「児童養護施設や里親家庭などの社会的養護で暮らし、家庭に戻ったことも」。または「地域で家族と暮らし経済的に困難な状況にあり、また家族の状況から社会的養育を特に必要とすることも（ヤングケアラーや外国籍、障がいのあるこどもを含む）」。 (2) 児童家庭支援センター、社会的養護自立支援拠点事業所、自立援助ホーム、里親支援センター、フォスティング機関等のいずれかの継続的な支援（ソーシャルワーク）を受けており、そのセンター、事業所、ホーム、機関等から推薦を受けたこども。 〈給付額〉 前期分（4～9 月分）＝ 5 万円 後期分（10 月～3 月分）＝ 5 万円 卒業時の「卒業祝金」＝ 2 万円 2025 年度から開始。同後期受付分として、136 人に総額 738 万円を給付しました。
助成の目的	困難がありながら地域で暮らす子どもの高校就学を支援する。 給付を媒介として、子ども・家族・地域・支援機関の連携を強化する。継続的な支援と一体となり、子どもが将来の安定を見据え、自らの力で未来を拓くことを支える環境を整える。
助成した人数	136 人（うち 29 人には卒業祝金も給付）
助成総額	738 万円
助成の内訳	25 年度後期分給付、卒業祝金
実施時期	後期：10 月 1 日（水）～26 年 3 月 31 日（火）

事業の名称	自立援助ホーム・子どもシェルター 未来まなび応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
事業開始年度	2020 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	協力：社会福祉法人カリヨン子どもセンター 協賛：公益財団法人原田積善会
事業の概要	自立援助ホームや子どもシェルターで現在暮らしている、またはかつて利用していた 15 歳～29 歳を対象に、高校就学の継続や本人の「学び」を支えるための資金を給付します。2025 年度は、制度の一部を変更したため、後期分のみ受け付けました。 〈給付額〉 6ヶ月間の就学に対して上限 6 万円を給付（返済不要）。
助成の目的	高校（全日制・定時制・通信制）や高等専修学校などで学ぶ、自立援助ホームなどで暮らす子ども、若者の就学継続や資格取得、自立に向けた努力を応援するため。
助成した人数	297 人
助成総額	1604 万 2725 円
助成の内訳	25 年度後期分給付
実施時期	後期：10 月 1 日（水）～26 年 3 月 31 日（火） 10 月 1 日（水）～31 日（金）に申込受付、11 月末ごろに贈呈

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
事業開始年度	2008 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業の概要	児童養護施設、里親家庭、自立援助ホームで暮らし、大学などで学ぶ方に、入学祝金 10 万円と卒業まで毎年 30 万円の返済不要の奨学金を給付します。
助成の目的	社会的養護で育った人の自立支援。
助成した人数	58 人（在校生 42 人、25 年 4 月入学 16 人）
助成総額	1900 万円
助成の内訳	25 年度分給付、入学祝金
その他	本事業は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられたご寄付と山岡子ども応援資金などによって行っています。 ご寄付の内訳： クラウドファンディング（READYFOR）のべ 132 人から 264 万 667 円 直接寄付 のべ 92 人から 805 万 181 円 ※ 2024 年度の募集をもって新規の奨学生募集を終了しました。 なお、すでに採用されている学生につきましては、引き続きご支援いたします。

「ぴあ応援団」の活動
（7～11 ページ参照）



ぴあミーティング。
今後の活動についてさまざまな意見がでました。



応援メンバーが企画・運営した研究会の様子
（横浜市）



里親制度説明会で体験を話す応援メンバー
（宇都宮市）

事業の名称	ぴあ応援団 (ぴあミーティング、ぴあ応援ブック、ぴあ応援ラジオ、Miomus、すだちず、シェアセミナー、講演等への登壇)
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
事業開始年度	ぴあ応援団発足：2025 年度
開始年度 (個別)	【ぴあミーティング】 2022 年度 【ぴあ応援ブック】 2022 年度 【ぴあ応援ラジオ】 2022 年度 【Miomus】 2023 年度 【すだちず】 2023 年度 【シェアセミナー】 2023 年度
主催	【ぴあミーティング】 ぴあ M 実行チーム 【ぴあ応援ブック】 ぴあ応援団ブック制作チーム 【ぴあ応援ラジオ】 ぴあ応援団ラジオ制作チーム 【Miomus】 Miomus ネットワーク 【すだちず】 すだちず制作委員会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	【シェアセミナー】 協力：①ぴあ応援団、一般財団法人ゼンショーかがやき子ども財団、朝日新聞厚生文化事業団 ②ぴあ応援団ラジオチーム、公益財団法人教育支援グローバル基金ビヨンドトゥモロー、朝日新聞厚生文化事業団③ぴあ応援団ふえすチーム、朝日新聞厚生文化事業団④公益財団法人資生堂子ども財団、朝日新聞厚生文化事業団⑤ぴあ応援団、NPO 法人モバイル・コミュニケーション・ファンド、朝日新聞厚生文化事業団 ⑥朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	社会的養護を経験した若者による、同じ境遇にある後輩たちの将来の不安を軽減し、また、これからの社会的養護をより良くするための活動です。これまでは進学応援金を受給する学生の活動として行ってきましたが、希望する当事者も参加できるよう「ぴあ応援団」が発足。活動の幅を広げました。対面でのセミナーや動画配信などさまざまな媒体を活用して、社会的養護のもとを離れた後の進路や生活情報、当事者としての思いを発信しています。
事業の目的	社会的養護で暮らす中高生の自立支援。
事業の内容	【ぴあミーティング】 社会的養護で暮らした同じ経験を持つ仲間たちが、世代やチームの垣根をこえて、交流する 1 泊 2 日の集いを夏と冬に開催しました。今後の活動について語り合い、推進させるきっかけになりました。 【ぴあ応援ブック】 「夢を見つけたきっかけ」「『進路の壁』 どう乗り越えた」「自分らしい未来を考えよう」などをテーマに、自立が視野に入ってきた中高生向け冊子を制作しています。25 年度は 3 回（8 月、12 月、26 年 2 月）発行しました。全国の児童養護施設、里親会、児童相談所など約 900 か所に送付しています。

【ぴあ応援ラジオ】

中高生に向けた YouTube での音声・動画配信プロジェクトです。「同じ境遇の後輩に自分たちの経験を役立てたい」という想いのもと、25 年度はショート動画を含め計 12 本のコンテンツを公開しました。

児童養護施設や自立援助ホームの職員をゲストに招き、施設のルールや進路・受験、措置延長、さらには退所後の生活や年齢制限の撤廃といった「制度」について詳しくお話を伺いました。

また、教育支援グローバル基金「BEYOND Tomorrow」で活動する学生を迎え、「施設での支援やルール」「職員さんにしてもらって嬉しかったこと」をテーマにした動画も収録・制作しました。

【Miomus】

社会的養護の奨学金を運営している全国の団体に呼びかけ、ともに情報を発信していく Miomus ネットワークが運営する「奨学金検索サイト」です。体験談などをもとにした応援生のコラム記事なども随時配信しています。

【すだちず】

施設や里親家庭からの巣立ちを控えた中高生が抱く気になることに、応援団メンバーや社会的養護にかかわる専門家が、実体験に基づくアドバイスで応えるメッセージ集形式のウェブサイトです。

サイトへスムーズにアクセスしてもらうためのツールとして、大学ノート風の案内冊子「とびだシート」を制作。全国の児童養護施設や里親会などを通じて、子どもたちへ頒布しています。

【シェアセミナー】

応援メンバーが企画・運営する出張型のセミナーを 6 回行いました。体験談を話したり、子どもと養育者、それぞれの思いや気持ちを知るためのワークショップを実施したりしました。専門家もお招きし、運営にご協力いただきました。

- ①「こどもが目標に向かうためのサポートを考える研修会」(全国児童養護問題研究会 神奈川支部主催)
- ②「自立支援事業を経験した方からの経験談」(栃木フォスタリングセンター主催)
- ③「あのときありがとう～社会的養護への偏見をなくしたい～」(NPO 法人 なごやかサポートみらい主催)
- ④「自分らしい未来を考えよう」(愛知県社会的養護自立支援協議会、ぴあ応援団ブックチーム主催) ※久米忠史さん(奨学金アドバイザー) 協力
- ⑤「おいしく学ぶ! COOKING 自立準備 & ハンバーグづくり」(一般社団法人コンパスナビ主催)
- ⑥「考えよう! 今と未来」(みやぎ里親支援センターけやき、ぴあ応援団シェアチーム主催)

	【その他 登壇活動】 社会的養護の現場や、里親制度の普及・啓発を目的として、行政や支援機関からの依頼に基づき、当事者メンバーによる体験発表やトークセッションに参加しました。 ①全国児童養護問題研究会 分科会 ②「里親制度説明会」(栃木フォスタリングセンター主催) ③「里親制度啓発トークイベント」(横浜市主催) ④「オンライン子どもサロン」(キアアセット主催) ⑤「里親研修会」(浜松市児童相談所主催)
実施日時	【ぴあミーティング】①8月2日(土)・3日(日) ②26年2月14日(土)・15日(日) 【ぴあ応援ブック】8月、12月、26年2月発行 【ぴあ応援ラジオ、Miomus、すだちず】随時更新 【シェアセミナー】①5月16日(金) ②5月17日(土) ③6月28日(土) ④6月29日(日) ⑤10月5日(日) ⑥2026年2月11日(水) 【その他 登壇活動】①6月22日(日) ②7月26日(土) ③10月5日(日) ④26年1月5日(月) ⑤26年2月28日(土)
場所	【ぴあミーティング】①北九州市②横浜市栄区 【ぴあ応援ブック、ぴあ応援ラジオ、Miomus、すだちず】オンライン、冊子の配布等 【シェアセミナー】①VILLENT 関内(横浜市)、オンライン ②とちぎ男女共同参画センター(宇都宮市) ③えがおの架け橋(名古屋市) ④愛知県社会福祉会館(名古屋市) ⑤東大宮コミュニティセンター(さいたま市) ⑥児童養護施設ラ・サール・ホーム(仙台市) 【その他 登壇活動】 ①国立オリンピック青少年総合センター(東京都渋谷区) ②栃木県総合文化センター(宇都宮市) ③横浜市役所アトリウム ④オンライン ⑤浜松市児童相談所
参加者数(合計)	245人
参加者数の内訳	【ぴあミーティング】①31人②22人 【シェアセミナー】①28人②30人③23人④50人⑤7人⑥54人

事業の名称	ぴあ応援団 全国奨学金団体交流会
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
事業開始年度	2024 年度
主催	ぴあ応援団 Miomus チーム
後援等	協力：Miomus ネットワーク幹事団体 (幹事団体：一般財団法人ゼンショーかがやき子ども財団、NPO 法人モバイル・コミュニケーション・ファン、公益財団法人教育支援グローバル基金、公益財団法人資生堂子ども財団、社会福祉法人東京都社会福祉協議会、朝日新聞厚生文化事業団)
事業の概要	社会的養護の奨学金を運営する団体が集い、学生や子どものためのより良い奨学金制度や支援を一緒に考えるための交流会です。当事業団を含め 15 団体が参加しました。
事業の目的	団体間の垣根を越えた連携を深めることで、当事者に寄り添ったより良い奨学金制度や、サポートのありかたをともに考える。
事業の内容	社会的養護で暮らした経験のある学生が中心となり、企画・運営を行った交流会です。 前半は、早川悟司さん（社会福祉法人子供の家本部・理事）と応援団メンバーによる対談を行い、若者が施設退所後に直面する構造的な困難について掘り下げました。後半のグループセッションでは、奨学金運営団体の職員と当事者の学生・社会人らが一堂に会し、活発に意見交換しました。 ■「資金等計画書」の共通ベースフォーマットを作成、公開 これまでの「全国奨学金団体交流会」や Miomus チームのミーティングでは、奨学金に応募する際「団体ごとに異なる書類を何度も作成するのが大変」という切実な声が上がっていました。これを受け、Miomus ネットワーク幹事団体を中心に検討を重ね、まずは、資金等計画書共通項を整理。必要な項目を迷わず記入できることを重視した、新たな共通フォーマットを作成しました。多くの奨学金運営団体に活用いただけるよう、現在は Miomus の公式ホームページにて公開しています。 《交流会参加団体》 資生堂子ども財団、モバイル・コミュニケーション・ファン、ゼンショーかがやき子ども財団、教育支援グローバル基金、社会福祉法人東京都社会福祉協議会、NPO 法人ブリッジフォースマイル、早稲田大学学生部奨学課、明星大学、埼玉県社会的養護を考える会、NPO 法人キッズドア基金、NPO 法人タイガーマスク基金、公益財団法人小林奨学財団、公益財団法人日本フィランソロピック財団、公益財団法人あすのば、朝日新聞厚生文化事業団 《参加した学生など》 資生堂子ども財団奨学生、ドコモ奨学金奨学生、ゼンショーかがやき子ども財団奨学生、ぴあ応援団メンバー
実施日時	11 月 30 日（日）
場所	朝日新聞東京本社
参加者数(合計)	33 人（15 団体から職員 24 名、学生 9 名）

事業の名称	びあ応援団 自分を守るお金の知恵～経験者と専門家に学ぶセミナー～
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
事業開始年度	2025 年度
主催	Miomus ネットワーク幹事団体
後援等	協力：びあ応援団
事業の概要	金銭的な失敗や詐欺被害、それらに起因する学校の中退といったリスクから奨学生を守ることを目的とし、先輩の体験談を聞いたり、お金の専門家から注意すべきことを学ぶセミナーです。
事業の目的	社会的養護を経験した学生が、給付型奨学金を受けるだけでなく、新生活を迎え、経済的・精神的に自立し、安心して学業に専念できる基盤をつくること。
事業の内容	各団体の職員だけでなく、社会的養護を経験したそれぞれの団体の奨学生が企画・運営に参加したセミナーです。 社会的養護を経て進学した学生を対象に、YouTube ライブにて限定配信を実施。当日は、先輩学生や社会人4名が「失敗談」「貯金」「節約」をテーマに自身の経験を共有したほか、アコム株式会社の専門家（前田望さん、藤澤成典さん）を交え、「投資・クレジットカード・貸与型奨学金」のテーマに沿った金融リテラシークイズや質疑応答を行いました。
実施日時	6 月 20 日（金）
場所	オンライン
参加者数(合計)	32 人

「びあ応援団」の活動
(7～11 ページ参照)

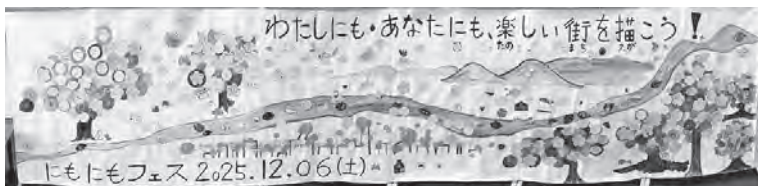


「奨学金団体交流会」では、当事者の学生と奨学金団体の職員が活発に意見交換を行った



応援メンバーが企画・運営したワークショップの様子
(仙台市)

事業の名称	にもにもフェス ～わたしにも あなたにも～
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
事業開始年度	2020 年度
主催	にもにもフェス実行委員会、シルバーリボンジャパン、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	協力：ひきこもり支援ネットワークらいむらいと、 芥川事業所（農福連携等プラス推進モデル事業）
事業の概要	誰もが望んだ場所で心豊かに暮らせる地域のあり方を、精神障がいがある人やその家族、支援にあたる人の視点から考えるワークショップ。2025 年度は、大阪府高槻市で活動をする団体と、より地域に開かれた形で実施しました。
事業の目的	障害の有無にかかわらず、誰もが望んだ場所で、自分らしく、心豊かに暮らせる地域社会のあり方を「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」（以下「にも包括」）を切り口に、地域の皆さんと考え、精神障害およびメンタルヘルスの理解の促進、地域共生社会の実現に寄与すること。
事業の内容	4つの会場にわかれ、プログラムを実施しました。 第1会場：「にも包括」体験ブース 「わたしにも・あなたにも、楽しい街を描こう！」 地域住民が主体的に参加し、対話を通し、精神疾患、精神障害への理解を深めながら、誰もが暮らしやすい未来の街をイラストや言葉で表現する。 アート担当：薮内舞さん（抽象作家） 第2会場：「にも包括」を知るブース 映画「生きて生きて生きろ」の上映、トークセッション、交流トーク。 講師：米倉一磨さん（NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会 相馬広域こころのケアセンターなごみセンター長）、宮崎宏興さん（特定非営利活動法人いねいぶる理事長）、古橋陽介さん（特定非営利活動法人江戸川区相談支援連絡協議会） 第3会場：楽しむブース ダンス＆音楽のステージ 第4会場：マルシェ
実施日時	12月6日（土）
場所	安満遺跡公園 西エリア ボーネルンド Park Center（大阪府高槻市）
参加者数(合計)	約 400 人



参加者とともに描いた「わたしにも あなたにも 楽しい街」



各地域での活動紹介後、参加した皆さんとの交流トーク

事業の名称	ぴあラボフォーラム 「仲間とつながって見えたこと～『ぴあ』がつくる『居心地の良い場所』とは～」
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
事業開始年度	2024 年度
主催	ぴあラボ実行委員会、朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	24 年度に立ち上げた「ぴあラボ実行委員会」の中で、「ピアサポート」について探求するとともに、ピアサポート団体のつながりを構築するためのフォーラムを開催しました。また、ぴあラボ実行委員会として取り組んできた内容、および「ピアサポート」に対する考えをまとめた報告書「ピアを探求」を発行しました。
事業の目的	・ 様々なピア活動を知り、知見を広げ、ピアサポートグループの発展継続のための未来への糧とする。 ・ ピアサポート団体のネットワークを構築する。 ・ ピア活動が持続可能な形でさらに広がり、支え合える社会の実現を目指す。
事業の内容	【フォーラム】 プログラム ・ 「ぴあ」の探求 ピあラボ活動報告 ・ 対談「居心地のよい居場所って？— 多様な生き方を支える「場」のあり方を考える —」 ゲスト：木村幸嗣さん（社会福祉法人高槻市社会福祉協議会）×実行委員：山中葉月さん（一般社団法人 later on） ・ グループワーク「みんなで考える 居場所×ぴあ」 【ぴあラボ報告書「ピアを探求」】 以下の内容を実行委員が執筆。ホームページ上での公開のほか、ボランティアセンター等を通じて希望団体に配布。 1. ぴあラボとは 2. フォーラム報告 3. ぴあ活動とはなんでしょう？ ＜ぴあラボ実行委員＞ 坂本拓（こどもぴあ）、小林鮎奈（こどもぴあ、一般社団法人ヤングケアラー協会）、丸藤健悟（こどもぴあ）、山中葉月（later on）、村下初海（コーダえん）
実施日時	【フォーラム】26 年 3 月 15 日（日）
場所	オンライン
参加者数(合計)	12 人



ぴあラボ報告書「ピアを探求」

事業の名称	精神疾患の親に育てられた子どもの立場のピアサポート
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
事業開始年度	2018 年度
主催	精神疾患の親をもつ子どもの会こどもぴあ
後援等	協力：朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が集まり、一人で抱えてきた体験や思いを語り合うピアサポートの場。その運営を、共に歩むパートナーとして継続的に支えてきました。25 年度は、全国 7 拠点をもつ「こどもぴあ」のネットワークをより確かなものにするため、各拠点の状況に合わせた対面での交流や個別対話の機会の創出をサポートしました。
事業の目的	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場のピアサポート活動の継続・発展に寄与すること。
事業の内容	「こどもぴあ岡山ぴーち」のミーティングの場や、「こどもぴあ高知けんぴ」が主催する活動において、精神疾患の親をもつ子どもの会こどもぴあ（東京拠点）のメンバーが現地を訪れ、直接対話する機会をサポートしました。物理的な距離を越えて顔を合わせ、各地の現場の空気感を分かち合うことで、地域拠点間のゆるやかな連携と相互理解を深めました。
実施日時	26 年 2 月 22 日（日）、23 日（月）
場所	岡山市、高知市

事業の名称	「発達障がい」とともに生きる 豊かな地域生活応援助成
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
事業開始年度	2022 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	発達障がいのある当事者が苦手なことに寄り添う支援や、得意分野を伸ばす活動、学校や職場・家庭以外の居場所、余暇を充実させるための活動などを応援し、助成金を贈呈します。
助成の目的	発達障がいのある人やその家族、支援者のための活動を応援することで、障がいの有無にかかわらず、誰もが活躍できる社会を目指します。
助成した団体数	11 団体
助成団体の内訳	〈3 年継続助成〉 ・特定非営利活動法人芸術家と子どもたち（東京都、特別支援学級等での発達障がい児による創造的体験とインクルーシブ教育実践） ・特定非営利活動法人ネスト・ジャパン（東京都、発達障がいの人たちの興味に特化した余暇活動支援普及のための出張余暇事業） ・特定非営利活動法人ディスレクシア協会名古屋（愛知県、読み書き障がい〔発達性ディスレクシア〕の子どもと共に未来を創る） ・NPO 法人 DDAC（大阪府、安心して参加できる当事者グループを支える環境づくり事業） 〈単年助成〉 ・成人発達障害支援学会（東京都、デイケアと自助グループが共に学ぶ全国フォーラム） ・医療法人社団草童会（東京都、町田市南地区の児童発達障がい支援連携体制構築に向けた研修事業） ・特定非営利活動法人東京都自閉症協会（東京都、成人期以降の自閉スペクトラム症の人とその家族の余暇支援事業） ・合同会社 Ledesone（大阪府、大人の LD と向き合い過ごしやすい社会を共創する「おとな LD ラボ」事業） ・一般社団法人 ABA SPEAKS（兵庫県、はったつ FES 2026 : Talk & Walk ABafes） ・NPO 法人親の育ちサポートかがわ（香川県、子ども発達応援プロジェクト） ・熊本県自閉スペクトラム症協会（熊本県、自閉症児者が地域で暮らすための、民生委員・主任児童委員への理解啓発活動）
助成総額	959 万 410 円
助成額の内訳	1 団体につき最大 100 万円を上限に助成。
その他	※ 2024 年度をもって新規募集は終了しました。

事業の名称	第 42 回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
事業開始年度	1984 年度
主催	一般財団法人全日本ろうあ連盟、朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援等	協力：公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟 後援：厚生労働省、文部科学省、こども家庭庁、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会 協賛：日本電気株式会社（NEC）
事業の概要	弁論原稿・映像審査を経て選ばれた 10 人がコンテストに出場。秋篠宮家の次女佳子さまご臨席のもと、「私が出会った忘れられない言葉」「今の社会に足りないもの」をテーマにした手話によるスピーチで競いました。入賞者は合計 5 人でした。応募者は 62 人。
事業の目的	手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進
事業の内容	◆入賞者 1 位 森永うらら（東京都立上野高等学校 3 年） 2 位 吉田理紗（愛媛県・済美平成中等教育学校 2 年） 3 位 神田実和（宮崎県立妻高等学校 1 年） 奨励賞 坂東乙花（大分県・大分東明高等学校 2 年） 本田妃麗（新潟県立燕中等教育学校 2 年） ◆出場者 竹内美紗（栃木県・おおぞら高等学院宇都宮キャンパス 2 年）、大屋玲葉（埼玉県・浦和明の星女子中学・高等学校 2 年）、久川晴葉（千葉県・日出学園高等学校 1 年）、永田千怜（静岡県立三島南高等学校 2 年）、黒田優子（愛知県・桜花学園高等学校 3 年） ※入賞者には賞状・トロフィー・盾、NEC からの賞品（ノートパソコンやタブレット）が贈呈されました。また、出場者全員に NEC からコンテストの録画 DVD が贈られました。 ◆審査員 小椋英子・日本手話通訳士協会相談役、吉元信治・厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室長補佐、堀米泰晴・全日本ろうあ連盟理事、山根昭治・全日本ろうあ連盟理事、栗野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、浜田陽太郎・朝日新聞社論説委員 〈特別プログラム〉 講演「みんなでつくるデフリンピックと共生社会」 川俣郁美（公益財団法人日本財団特定事業部、障害インクルージョンチーム（兼）グローバル・イシューチーム、東京 2025 デフリンピック応援アンバサダー）
実施日時	募集開始：4 月 1 日（火） 審査：7 月 9 日（水） コンテスト：8 月 31 日（日）
場所	コンテスト：有楽町朝日ホール（東京都千代田区）
参加者数(合計)	62 人（応募者）

事業の名称	第 45 回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会 第 34 回九州車いすツインバスケットボール選手権大会
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
事業開始年度	【朝日九州】1980 年度 【ツインバスケ】1989 年度
主催	九州車いすバスケットボール連盟、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	【朝日九州】 協力：一般社団法人熊本県バスケットボール協会ほか 後援：熊本県、熊本市 【ツインバスケ】 協力：国際医療福祉大学 後援：九州車いすツインバスケットボール連盟
事業の概要	いずれも九州車いすバスケットボール連盟に所属しているチームを中心に開催している障がい者スポーツの大会です。第 1 回から連盟とともに主催・共催し、助成金支出などで運営を支えています。
事業の目的	障がい者スポーツの振興を通じて障がい者の心身の健康と社会参加を促進するとともに、選手同士や地域住民らとの交流も進めます。
事業の内容	ともに九州各県から集まったチームがトーナメントで熱戦を繰り広げました。朝日九州の決勝では長崎サンライズが 70-40 で HAGAKURE DANGERS（佐賀）を下し、3 年ぶりに優勝しました。一方、下半身だけでなく、腕や手にも重い障がいがある人が取り組むツインバスケの決勝では、博多パトラッシュ（福岡）が 74-27 でマウゴッツ（熊本）を破り、2 連覇を果たしました。
実施日時	【朝日九州】12 月 13 日（土）、14 日（日） 【ツインバスケ】26 年 3 月 21 日（土）
場所	【朝日九州】熊本県立総合体育館（熊本市） 【ツインバスケ】国際医療福祉大学体育館（福岡県大川市）
参加者数(合計)	300 人
参加者数の内訳	【朝日九州】九州各地から 13 チーム 【ツインバスケ】5 チーム



朝日九州でプレーする選手たち



ツインバスケで優勝した博多パトラッシュのみなさん

事業の名称	障がい児・医療的ケア児の親と就労 ケアが必要な子×働く親 育児と仕事の両立ハンドブック
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
事業開始年度	2023 年度
主催	一般社団法人障がい児及び医療的ケア児を育てる親の会、朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	障がい児や医療的ケア児、疾患児を育てながら就労する親の、仕事と育児の両立について考える事業です。 育児期間中の就業条件に関して個別の事情を聴取し配慮することが事業主に義務づけられた「改正育児・介護休業法」が、2025 年 4 月 1 日から段階的に施行されています。ケアが必要な子どもを育てながら働く人たちへの視点が盛り込まれたこの法改正のポイントを説明するための冊子を制作しました。
事業の目的	子の年齢で区切ることが難しい障がい児・医療的ケア児の子育て支援制度の必要性を社会や職域に広めることを目的としています。また、ケアの必要な子どもを育てる親同士がつながり、お互いをエンパワメントすることも目的とします。
事業の内容	働く親、事業主に向けた B5 サイズ、16 ページの冊子を制作。オンラインでも公開。 内容： 仕事と育児の両立を阻む 4 つの壁／働く親たちの困りごと／改正！育児・介護休業法のポイント／私たちはこう戦った！身近な困りごとへの Q & A／両立のために、しくみを動かす！「壁」に 突破事例 ／動き出している企業の取り組みとは／働く親へのエール／困ったときの相談先一覧など（予定）
実施日時	26 年 5 月完成
場所	当事業団ホームページなどに掲載

事業の名称	障がいのある人の就労支援事業 パン、クッキー販売
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
事業開始年度	2018 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	東京都中央区にある区立知的障害者生活支援施設「レインボーハウス明石」が製造しているパンを、同じく東京都中央区にある朝日新聞東京本社の本館 2 階コンコースにて販売しています。また、歳末のチャリティーコンサート「メサイア」会場でも、障がいのある人たちが活躍する台東区の「IRODORI カフェ」にクッキーを作ってもらい販売しました。
事業の目的	障がいのある人が社会で活躍するのを後押しします。日ごろ障がいのある人と接する機会の少ない人には、活躍の様子を見たり接したりする機会にでもあります。
事業の内容	【パン販売】 会場に隣接する浜離宮朝日ホールで行われるランチタイムコンサートの開催日に合わせ、「レインボーハウス明石」が運営する「喫茶アラジン」のパンや、利用者さんによる自主製作品の雑貨の販売を行いました。 【クッキー販売】 25 年に第 75 回を迎えたチャリティー演奏会「メサイア」会場にて、75 回記念カード&クッキーを販売しました。ソリスト氏名や会場、公演日時が記載された特別なカードとクッキーと一緒に梱包しました。 メサイア演奏会の開始当初の理念でもある福祉への貢献を意識してもらう機会としました。
実施日時	【パン販売】 毎月 1 回 【クッキー販売】 12 月 23 日（火）
場所	【パン販売】 朝日新聞東京本社本館 2 階コンコース（東京都中央区） 【クッキー販売】 東京文化会館大ホール（東京都台東区）

事業の名称	第44回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展
事業種別	社会福祉事業（障害者福祉事業）
事業開始年度	1982年度
主催	社会福祉法人日本肢体不自由児協会、各道府県肢体不自由児協会
後援等	後援：厚生労働省、文部科学省、こども家庭庁、東京都、朝日新聞厚生文化事業団など 協賛：NTTデータ ルウィーブ株式会社、公益財団法人オリックス宮内財団、テルウェル東日本株式会社
事業の概要	全国の肢体不自由児者から絵画、コンピュータアート、書の部門で作品423点が寄せられ、これらの中から特賞、優秀賞、佳作、努力賞の計110点、デジタル写真展では410点の応募作品の中から特賞、金賞、銀賞、銅賞の計110点選ばれました。 表彰式は特賞受賞者が出席し、一部受賞者はオンラインを利用したハイブリッド方式で参加しました。
事業の目的	肢体不自由児・者の生きがいづくりと障がいのある人に対する理解を深めるため。
事業の内容	特賞のうち2作品（絵画、書）に「朝日新聞厚生文化事業団賞」を贈りました。受賞したのは陳内遼樹さん（長崎県立諫早特別支援学校中学部1年、絵画の部「美しい海」）と吉永結羅さん（福岡県立直方特別支援学校高等部1年、書の部「歩」）の2人。 表彰式で当事業団の笠原章宏事務局長は、陳内さんに「きれいな海を描いていただき、遠くから見ても海とひと目でわかりました。これからも頑張ってください」と賞状を授与しました。オンラインで式典に参加した吉永さんには「力強い『歩』、という字に感動しました。力強さとバランスの良い字に心打たれました。素敵な書でした」と話しました。オンライン出席者には後日賞状が送られます。 また、表彰式に常陸宮妃華子さまが訪れ、作品をご覧になりました。
実施日時	表彰式：12月3日（水） 展示会：12月3日（水）～7日（日）
場所	表彰式：東京芸術劇場 5階シンフォニースペース（東京都豊島区とオンライン） 展示会：東京芸術劇場 5階ギャラリー1（東京都豊島区）。また、福岡県、沖縄県、新潟県の各肢体不自由児協会主催美術展でも巡回展示。
参加者数(合計)	833人



受賞作品の前でピースサインをする
陳内さん



吉永さんの受賞作品「歩」

事業の名称	認知症フレンドリーキッズ授業
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
事業開始年度	2019 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	小学 4～6 年生を対象にした、認知症について学ぶ特別授業です。特徴は VR（バーチャルリアリティー）を使った認知症の人が見る世界の疑似体験です。また、授業実施後は学んだ内容をもとに暮らしやすいまちづくりに取り組む地域活動を行い、自由に展開できることも特徴です。
事業の目的	高齢者（65 歳以上）の人口がほぼピークとなる 2040 年頃には、認知症とともに生きる人は 584 万人にのぼると推計されています。認知症に対する個人や社会の偏見をなくし、認知症があってもなくても、誰もが住み慣れた地域で一人ひとりが主体性や尊厳を大切に生きていける社会づくりのプロジェクトを通じて、福祉を担う若い人が増えることを目指しています。
事業の内容	小学校や地域の集会施設で約 100 分の授業を行います。双方向の対話を意識した基礎学習、VR 体験、グループワークが授業の主な内容です。その後、学んだ知識を活かして独自の地域活動を実践します。
実施日時	① 5 月 14 日（水）② 7 月 31 日（木）③ 9 月 9 日（火） ④ 11 月 27 日（木）⑤ 12 月 4 日（木）
場所	①富山市立水橋中部小学校（現：富山市立義務教育学校 水橋学園）5 年生 ②大阪府熊取町社会福祉協議会③神奈川県厚木市立小鮎小学校 4 年生 ④大阪市立西天満小学校 5 年生⑤広島県世羅町立甲山小学校 4 年生
参加者数(合計)	171 人



富山市立水橋中部小での授業の様子



大阪府熊取町社会福祉協議会での授業の様子

事業の名称	高齢者施設訪問事業「ゆうゆうビジット」
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
事業開始年度	2010 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	外出の機会が少ない高齢者施設の入所者や利用者らを対象に、プロの音楽家の生演奏や俳優による朗読、力士との交流など憩いのひとときをお届けするプログラムです。
事業の目的	特別養護老人ホームや介護福祉施設などで生活する高齢者の生きがいのため。
事業の内容	①浪曲師・玉川奈々福さんと曲師・広沢美舟さんによる浪曲 ②俳優・日色ともゑさんによる朗読と MUZIC@NET/ マリオネットの演奏 ③⑥高砂部屋の力士との交流 ④ベルリントリオによるミニコンサート ⑤日本ユニバーサルボッチャ連盟によるボッチャ体験 ⑦ギタリスト福田進一さんによるミニコンサート ⑧バイオリニスト川畠成道さんによるミニコンサート
実施日時	①7月3日（木）②8月19日（火）③9月29日（月）④11月3日（月） ⑤11月22日（土）⑥11月24日（月）⑦1月12日（月）⑧2月26日（木）
場所	①国立療養所栗生（くりう）楽泉園（群馬県草津町） ②特別養護老人ホーム梶原ふじの家（高知県梶原町） ③養護老人ホーム日の基青老閣（東京都北区） ④特別養護老人ホーム笑いの家（愛知県豊田市） ⑤特別養護老人ホーム敬寿苑（富山県富山市） ⑥特別養護老人ホーム三和荘（熊本県熊本市） ⑦養護老人ホーム白鷺園（千葉県習志野市） ⑧特別養護老人ホーム虹の里（神奈川県川崎市）
参加者数(合計)	約 809 人
参加者数の内訳	①約 100 人②約 100 人③ 72 人④約 100 人⑤ 60 人⑥約 100 人⑦ 107 人⑧ 170 人



朗読をする日色さん
＝高知県梶原町



川畠さんの音色に耳を傾ける利用者の皆さん
＝神奈川県川崎市

事業の名称	災害時大学ボランティアセンター支援（外出支援／マジック）
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
事業開始年度	2019 年度
主催	高崎健康福祉大学ボランティア支援・市民活動センター、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	協力：合同会社 Vivir 児童ホームあだぽと、社会福祉法人北伸福祉会あすなろ学園、社会福祉法人穴水福祉会平和こども園、下唐川地区集会所、NPO 法人レスキューストックヤード
事業の概要	災害時の早期活動を支援するために、全国各地の大学ボランティアセンターと「災害時の支援活動の協力に関する協定」を締結し、学生ボランティアが被災地で活動するための助成を行います。協定締結、資金助成は随時行います。2025 年度末の時点で 17 団体と協定を結んでいます。 2024（令和 6）年元日に発生した能登半島地震支援では、大学生が能登でボランティア活動を行うための助成や活動全般の支援を行います。
事業の目的	災害で被災した地域のニーズに応じた支援活動ができるよう後押しします。 ネットワークの創出により、ボランティアに携わる学生同士の学びや交流の機会を提供し、学生による災害ボランティア活動を発展させます。
事業の内容	高崎健康福祉大学ボランティア・市民活動支援センターとともに石川県穴水町および津幡町でボランティア活動を実施しました。あらかじめ訪問先の施設職員からレクチャーを受けて必要な知識を習得し、丁寧な支援計画を立てて活動に臨みました。 【外出支援】 学生 5 人が穴水町の児童ホームあだぽと（放課後等デイサービス）を利用して児童の外出支援として、津幡町にある屋内木育施設・もりのひみつきちへ遠足に行きました。 【マジック】 MAGIC CLUB 所属の学生 5 人が穴水町のあすなろ学園（児童養護施設）、下唐川地区集会所、平和こども園（幼保連携型認定こども園）でマジックと大道芸を披露し、みなさんと交流しました。
実施日時	【外出支援】 11 月 22 日（土） 【マジック】 12 月 21 日（日）、22 日（月）
場所	【外出支援】 石川県穴水町および津幡町 【マジック】 石川県穴水町
参加者数(合計)	106 人
参加者数の内訳	【外出支援】 大学生ボランティア 5 人、穴水町のみなさん 6 人 【マジック】 大学生ボランティア 5 人、穴水町のみなさん約 90 人



もりのひみつきちで遊ぶ児童と
学生ボランティア達



あすなろ学園ではクリスマス会で
マジックと大道芸を披露

事業の名称	能登半島未来応援金(能登半島地震 石川県立輪島漆芸技術研修所への助成)
事業種別	社会福祉事業（児童福祉事業）
事業開始年度	2024 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	25 年 1 月に開催された「朝日チャリティー色紙展・輪島応援工芸展」の収益を財源として、3 月 28 日に石川県立輪島漆芸技術研修所へ 2085 万円を助成しました。(2024 年度予算で拠出) 24 年 1 月の能登半島地震により甚大な被害を受けた地域で「輪島漆器」という大切な伝統文化を学ぶ、次世代を担う研修生たちのために活用いただきます。
事業の目的	伝統技術の習得を志す若手を支えることで、地域の誇りである漆芸文化を次世代へと繋ぎ、産地の再興を担う人材を育成、輪島市および能登半島地域の創造的な復興に寄与することも重要な目的としています。
事業の内容	同研修所では、助成をもとに以下の事業を実施しました。 【県外見学研修、香川県漆芸研究所の研究生との交流】 研修生 32 名と講師・職員 15 名、総勢 47 名が香川県漆芸研究所を訪問しました。国内に二つしかない公立の漆芸研修施設同士が全面的に交流するのは今回が初めての試みです。人間国宝・山下義人氏の案内による名品の鑑賞や研究所では香川漆器で使われる技法「蒟醬（きんま）」「存清（ぞんせい）」「彫漆（ちょうしつ）」を、実際に作業しているところを見ながら説明を受けました。、同年代の研究生との交流を通じて、研修生は大きな刺激と将来への活力を得ることができました。 【研修環境の整備と意欲向上の支援】 地震で失われた沈金刀、漆塗りヘラ、砥石などの専門的な教材や道具を順次補充し、実習を継続できる環境を整えました。これに加え、年 5 回開催される「図案コンペ」の成績優秀者に対し、副賞として高品質な漆芸道具を贈呈することで、研修生の創作意欲と技術向上への士気を高める取り組みを実施しました。 【地域貢献活動を通じた魅力発信】 輪島漆器の創造的復興に向けた取り組みとして、県内の小中学生を対象とした輪島塗制作体験会イベント「輪島塗をつくってみよう～伝統にふれる、未来をつくる。～」を開催しました。研修生が指導役として児童に直接指導を行うことで、漆芸への理解を深めてもらうとともに、研修生自身も次世代に技術を伝える喜びと責任を学ぶ貴重な地域交流の機会となりました。
実施日時	【県外見学研修】 10 月 14 日（火）～16 日（木） 【輪島塗制作体験会】 ① 26 年 2 月 21 日（土）、② 26 年 2 月 28 日（土） ③ 26 年 3 月 1 日（日）
場所	【県外見学研修】 香川県漆芸研究所見学、高松市美術館など（香川県高松市） 【輪島塗制作体験会】 ①石川県立輪島漆芸技術研修所②輪島塗会館③石川県輪島漆芸美術館（いずれも石川県輪島市）
参加者数(合計)	197 人
参加者数の内訳	【県外見学研修】 47 人【輪島塗制作体験会】 150 人

事業の名称	朝日のあたる家
事業種別	社会福祉事業（高齢者福祉事業）
事業開始年度	2012 年度
主催	一般財団法人みらい創造財団朝日のあたる家
事業の概要	朝日のあたる家は、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金をもとに、13 年 2 月に岩手県陸前高田市米崎町に開設され、福祉、医療という枠組みを超えた様々な地域交流プログラムを行ってきました。 その後、22 年 11 月に一般財団法人みらい創造財団朝日のあたる家が設立され、同法人が活動を引き継ぎました。会館運営を通じた様々なイベント型プログラムを実施するほか、活動をさらに広げて障がいのある人や地域の高齢者、農家との「農福連携事業」も開始しています。農福連携のコーディネート数は 24 年度以降岩手県内ではトップです。
事業の目的	東日本大震災被災地復興支援事業として実施しています。 東日本大震災後、人口減少や少子高齢化による弊害が顕著に表れている岩手県内において、住み慣れた地域で人々が支えあい、生きがいを持って暮らしていけるように様々な取り組みを行っています。
事業の内容	農福連携を軸に産業と福祉の連携、産業と地域の連携、農地保全や廃棄物再利用・削減など S D G s への取り組みのほか、朝日のあたる家を拠点とするコミュニティ活動を通じた多世代の社会参加の機会を提供しました。 事業団は、一般社団法人みらい創造財団朝日のあたる家に対し、2000 万円を助成しました。
実施日時	4 月 1 日～26 年 3 月 31 日
場所	岩手県陸前高田市米崎町
参加者数(合計)	3327 人（会館利用者）

東日本大震災へのご寄付、25 年度は約 112 万円

事業団の東日本大震災救援事業へ 2025 年度に寄せられたご寄付は 40 件、112 万 6884 円でした。東日本大震災救援募金（震災直後から 12 年 3 月末まで実施）も含めたご寄付の累計は、24 年 3 月末で約 9 万件、総額 37 億 6142 万 6538 円となりました。

【年度別】

10 年度：17 億 1703 万 9856 円▼ 11 年度：17 億 9627 万 3050 円▼ 12 年度：1 億 1362 万 4052 円▼ 13 年度：4572 万 1384 円▼ 14 年度：2359 万 9869 円▼ 15 年度：1847 万 7091 円▼ 16 年度：955 万 8676 円▼ 17 年度：767 万 8278 円▼ 18 年度：774 万 7348 円▼ 19 年度：530 万 5268 円▼ 20 年度：326 万 1002 円▼ 21 年度：833 万 5999 円▼ 22 年度：171 万 7701 円▼ 23 年度：91 万 2493 円▼ 24 年度：104 万 7587 円

事業の名称	すくすくの森相談室
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
事業開始年度	2022 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	協力：こども本の森 中之島
事業の概要	小児科医、歯科医、助産師などを相談員に招き、乳幼児を育てる保護者の不安や迷いに寄り添うグループ子育て相談を、大阪市の図書施設「こども本の森 中之島」で定期的に開催しています。
事業の目的	乳幼児の子育てをしている保護者に有益な情報やコミュニケーションの機会を提供し、迷いや不安から育児困難に陥ることがないように、関わりを持ちます。
事業の内容	医師、助産師、インストラクターのいずれかを相談員に招き、①グループ子育て相談タイム、②フリータイムの流れで、話をしたりおもちゃで遊んだりしながら、親子で緩やかに過ごしてもらう約 80 分間のプログラムです。身体測定やこども本の森スタッフによる絵本の読み聞かせも行っています。25 年度は計 10 回実施しました。
実施日時	5 月 28 日（水）、7 月 23 日（水）、9 月 24 日（水）、10 月 9 日（木）、11 月 1 日（土）、11 月 26 日（水）、12 月 11 日（木）、26 年 1 月 28 日（水）、2 月 12 日（木）、3 月 25 日（水）
場所	こども本の森 中之島（大阪市）
参加者数(合計)	141 人



11 月 1 日に開催した週末スペシャルの様子
（講師は大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学教授・濱崎考史先生）

事業の名称	自殺予防公開講座「命の参観日～多文化共生の観点からの自殺防止～」
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
事業開始年度	2005 年度
主催	社会福祉法人福岡いのちの電話、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	後援：福岡県、福岡市、K B C、朝日新聞社
事業の概要	国内の年間自殺者数が2万人を数え、このうち小中高校生の自殺が過去最多を更新する中、自殺予防につながる講演会を年に1回開催しています。誰でも無料で参加できます。
事業の目的	自殺を食い止めるために一人ひとりの市民に何をできるかを考えてもらうほか、深刻な悩みの相談に応じている「いのちの電話」の活動を広く知って頂くことも狙いです。
事業の内容	今回は、父親を自殺で亡くした体験を持つシンガーソングライターの玉城ちはるさんが講師を務め、音楽活動のかたわら10年間にわたって経済的に苦しい中国人留学生や養護施設出身者ら計36人を自宅に受け入れ、一緒に暮らす「ホストマザー」活動を続けてきた自らの経験を話しました。異文化の者同士がひとつ部屋の下で暮らしながら、様々な衝突や摩擦が生まれたことを紹介しながら、「他者を理解し、受け入れる難しさを痛感した」と吐露。「自分の価値観だけで対応してはいけない」として、違いを認め合い、互いに歩み寄る対話の大切さを訴えました。
実施日時	26 年 1 月 18 日（日）
場所	レソラホール（福岡市）
参加者数(合計)	150 人



講演する玉城ちはるさん

事業の名称	西部朝日福祉助成金
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
事業開始年度	1999 年度
主催	朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	九州・山口地区を対象に、地域に根差した社会福祉活動に継続的に取り組んでいる団体に対して助成金を支給しています。
助成の目的	地域で続いている地道な社会福祉活動への支援が目的です。使途は問わず、運営費として活用してもらっています。
助成した団体数	3 団体
助成団体の内訳	社会福祉法人福岡いのちの電話（福岡市） 社会福祉法人北九州いのちの電話（北九州市） 公益社団法人福岡県交通遺児を支える会（福岡市）
助成総額	30 万円
助成額の内訳	各団体に各 10 万円
実施時期	年 1 回。秋ごろに申請書の提出を受けて審査したうえで、2～3 月に交付。
その他	福岡いのちの電話と北九州いのちの電話は、ボランティア相談員が「24 時間・365 日」態勢で電話相談に応じ、孤独や不安を抱えた人たちに寄り添う活動を続けています。ただ、相談員の減少・高齢化が進み、活動の維持のためには新規の相談員の確保が喫緊の課題になっています。また若年層の電話離れや A I の急速な普及にどう対応していくか、という新たなテーマも生まれています。 福岡県交通遺児を支える会は、交通遺児に対して返済不要の奨学金給付やバスツアー、プロ野球観戦などの諸活動を続けています。ただ、遺児の人数自体は減ってきており、「高校無償化」の流れの中で奨学金事業も再検討する時期を迎えています。



助成金の目録を受け取る各団体の代表ら

事業の名称	第 77 回保健文化賞
事業種別	公益事業（福祉啓発・公衆衛生事業）
事業開始年度	1950 年度
主催	第一生命保険株式会社
後援等	後援：厚生労働省、社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団、朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	健康増進、疾病予防などの保健衛生分野、高齢者・障がい者支援の保健福祉分野、少子化対策等、地域に密着した身近な活動や、実際的な活動に継続的に取り組んできた団体や個人を表彰します。 受賞者には感謝状、賞金（団体 200 万円、個人 100 万円）、朝日新聞厚生文化事業団賞（トロフィー）などを贈呈しています。
事業の目的	保健衛生に従事する方々の功績や労苦に対し、感謝と敬意をささげる。
事業の内容	◆第 77 回受賞者 団体 青森県助産師会 一迫記念 READ 血液アカデミー（宮城） 山形いのちの電話 チームふくしま（福島） パンキャンジャパン（千葉）、松戸市医師会健康啓発委員会（同） キープ・スマイリング（東京）、ジョイセフ（同） 石川県助産師会 エンジェルの会（和歌山） 個人 医師・池田正一（東京）、医師・木村晋也（佐賀）、保健師・木添茂子（宮崎）
実施日時	募集：2 月 3 日（月）～ 4 月 15 日（火） 贈呈式：11 月 19 日（水）
場所	贈呈式：明治記念館（東京都港区）
参加者数(合計)	33 件（応募総数）
参加者数の内訳	応募総数 33 件（団体 22 件、個人 11 件）



第 77 回保健文化賞の受賞者ら

事業の名称	朝日チャリティー美術展
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
事業開始年度	2020 年度からリニューアルして開催
主催	朝日新聞社、朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	日本画家、洋画家、陶芸家などの美術家の出品作品をインターネットで展示販売するチャリティー事業です。東京で実展示も行いました。436 件の入札がありました。
事業の目的	収益を朝日新聞厚生文化事業団が行う社会福祉事業に充てます。
事業の内容	162 人の作家から寄せられた作品をインターネット上で展示し、サイレントオークション形式で販売しました。 ◆主な出品作家（敬称略） 石踊紘一、伊勢崎淳、井上萬二、井口由多可、今井喬裕、岩波昭彦、大津英敏、岡信孝、笠井誠一、酒井英利、笹本正明、関谷理、千住博、高木聖雨、玉那覇有公、徳田八十吉、永瀬武志、中村宗弘、福井江太郎、福岡通男、藤原秀一、二川和之、宮田亮平、村山明、吉田美統
実施日時	日時、ネット展示：6 月 5 日（木）～23 日（月） 東京展示会場：6 月 13 日（金）～18 日（水）
場所	有楽町朝日ギャラリー（東京会場・東京都千代田区）
参加者数(合計)	360 人
参加者数の内訳	出品作家 162 人、入札参加者 198 人
収入（合計）	2147 万 5000 円
収入の内訳	販売収入
その他特記事項	6 月 2 日（月）付朝日新聞夕刊（東京、大阪）、6 月 12 日（木）付朝刊（東京）に特集紙面を掲載。

事業の名称	朝日チャリティー色紙展
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
事業開始年度	2020 年度からリニューアルして開催
主催	朝日新聞社、朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	著名人や漫画家の方々から寄贈された色紙を販売する、チャリティーイベントです。1444 件の入札がありました。
事業の目的	収益を朝日新聞厚生文化事業団が行うことも応援金事業の給付型奨学金の推進に役立てます。
事業の内容	◆寄贈いただいた方々（敬称略） 藍弥生、肋骨凹介、伊藤彰剛、伊藤秀男、今村翔吾、岩明均、岩本ナオ、上村貞郎、魚豊、うすくらふみ、薄場圭、蛭原あきら、かわぐちかいじ、北川進、北澤平祐、北見けんいち、北村さゆり、清原なつの、藏丸竜彦、黒田潔、紺野アキラ、斉木久美子、斉藤美奈子ボツフォード、サイトウユウスケ、佐藤邦雄、三遊亭小遊三、シゲタサヤカ、下瀬翠、釈徹宗、妹島和世、千宗室、千宗守、千宗旦、ZORN、高瀬志帆、高田明浦、多川俊映、竹井千佳、武田綾乃、武田一義、竹宮恵子、田島征三、田尻真弓、竜山さゆり、田村由美、ちばてつや、ちほちほ、趙治勲、tupera tupera、つるまいかだ、とりのなん子、泥ノ田犬彦、中村俊貴、にごたろ、西村敏雄、野田樹潤、野村俊夫、野村萬斎、野村万作、野村裕基、萩尾望都、爆笑問題、羽生善治、浜野史、はまのゆか、ぱらり、ヒサクニヒコ、松本大洋、マツモトヨーコ、溝呂木陽、南井健治、みほとけ、宮島未奈、三好貴子、陸奥 A 子、村上康成、森清範、安彦良和、矢部太郎、山口つばさ、山口哲司、山口マサル、山崎貴、やましたこうへい、山田ヒツジ、山中伸弥、山村東、吉田修一、蓬田やすひろ、LUCA TIERI（ルカ・ティエリ）、ルメール、和久井健、笑い飯 哲夫
実施日時	26 年 2 月 3 日（火）～ 2 月 16 日（月）
場所	オンライン
参加者数(合計)	917 人
参加者数の内訳	出品作家 94 人、入札参加 823 人
収入（合計）	2073 万 9000 円
収入の内訳	販売収入
その他特記事項	26 年 1 月 29 日（木）付朝日新聞朝刊（四本社）に特集紙面を掲載。

事業の名称	第 75 回チャリティーコンサート「メサイア」
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
事業開始年度	1951 年度
主催	朝日新聞社、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	協力：国立大学法人東京藝術大学 特別協賛：公益財団法人原田積善会
事業の概要	東京藝術大学音楽学部の協力を得て、毎年歳末に開催しているチャリティーコンサート。演目は慈善を目的とした演奏会の源流ともいわれる G・F・ヘンデルの「メサイア」。
事業の目的	収益の一部を当事業団の社会福祉事業に充てる。
事業の内容	オラトリオ「メサイア」の全曲演奏。 ◆出演 演奏：藝大フィルハーモニア管弦楽団 独唱：東京藝術大学大学院生 藤原 優花（ソプラノ）、佐藤 真子・松岡 なつ美（アルト）、小野 颯介（テノール）、須田 龍乃（バス） 合唱：東京藝術大学音楽学部声楽科 指揮：梅田俊明 合唱指揮：辻秀幸
実施日時	12 月 23 日（火）
場所	東京文化会館大ホール（東京都台東区）
参加者数(合計)	2049 人
参加者数の内訳	入場者
参加費用	SS 席 = 9000 円、S 席 = 6000 円、A 席 = 5000 円、B 席 = 4000 円、C 席 = 3000 円
収入（合計）	1225 万 1200 円
収入の内訳	チケット販売代金 1092 万 5000 円 プログラム・ポスター販売代金 76 万 2000 円 チャリティークッキー販売代金 6 万 4200 円 協賛金 50 万円
その他特記事項	11 月 22 日（土）付朝日新聞朝刊（東京）に特集紙面を掲載。



演奏の様子

事業の名称	親子で楽しむクリスマスコンサート FINAL
事業種別	公益事業（チャリティー事業）
事業開始年度	2000 年度
主催	株式会社ソングブックカフェ、朝日新聞厚生文化事業団
事業の概要	子どもから大人まで親子で一緒に楽しめる参加型のコンサート。25 回目を迎えた 25 年度で一旦の区切りとしました。中川ひろたかさん、新沢としひこさん、ケロポンズをお迎えし、「FINAL」として、これまでの感謝をこめて盛大にお届けしました。
事業の目的	小さな子どもから大人まで一緒に楽しめる機会とするとともに、保育者が子どもとのかかわりのヒントを得られるようにする。 収益の一部を福祉事業に充てる。
事業の内容	広く愛唱されている「世界中のこどもたちが」や「にじ」、体を動かしながら楽しむ「エビカニクス」、絵本の朗読など、子どもたちも一緒に参加できる音楽、あそびうたなどが披露されました。 ◆出演者 中川ひろたかさん、新沢としひこさん、ケロポンズら。
実施日時	12 月 21 日（日）
場所	有楽町朝日ホール（東京都千代田区）
参加者数(合計)	590 人
参加費用	チケット代金 前売 3850 円 当日 4400 円（税込、全席指定、大人・子ども同額）
収入（合計）	30 万円
収入の内訳	収益の中から 30 万円のご寄付をいただきました。



ケロポンズによるエビカニクス。参加した子どもと一緒に歌って踊って楽しめました



アンコールの最後は「ともだちになるために」で幕を閉じました

朝日福祉ガイド 本・DVD

朝日福祉ガイドブック

- ・ 四行からはじめる遺言作成 Q & A 1,320 円
- ・ 生き方、逝き方ガイドブック 1,320 円
- ・ なるほど高次脳機能障害 1,320 円
- ・ みんなのうつ 1,100 円
- ・ 認知症とともに 1,100 円
- ・ 自閉症の人たちを支援するということ 880 円
- ・ 自閉症のひとたちへの援助システム 550 円
- ・ 100%あらたくん 660 円
- ・ 精神障害者のホームヘルプサービス 880 円

朝日福祉ガイド DVD

- ・ 自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～
全 3 巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～
全 3 巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の子どもの評価 生活スキル編
全 4 巻セット 18,480 円、各巻 4,950 円
- ・ 自閉症の子どもの自立課題
全 3 巻セット 13,860 円、各巻 4,950 円
- ・ TEACCH プログラムシリーズ～米国ノースカロライナ州にみる自閉症治療教育～
各巻 3,080 円
自閉症児の明日のために～TEACCH のねらいと考え方
親のための TEACCH プログラム
教師のための TEACCH プログラム
青年期・成人期の TEACCH プログラム

※本・DVD ともに価格はいずれも税込。

主な後援・協賛・協力事業一覧

日程	催事	
	主催者 ▽会場	

■本部（東京）

4～10月	第77回赤い羽根児童生徒作品コンクール 愛知県共同募金会ほか ▽NHK 名古屋放送センタービル（名古屋市）	後援
4/14～16	国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」 NPO 法人ゴールデンウェーブ ▽横浜みなとみらいホール・大ホール（横浜市）	特別 後援
5/17	はったつ FES.2025（第7回歩こう話そう TALK&WALK） ABA SPEAKS ▽JICA 横浜センター（横浜市）	後援
5/31、6/1	第40回 DPI 日本会議全国集会 DPI 日本会議 ▽オンライン	後援 助成
6月	第8回全国視覚障害者囲碁大会 日本点字図書館、日本福祉囲碁協会 ▽リフレッシュ氷川（東京都渋谷区）	協賛
6月2日～ 2026/1/31	第23回「高校生ふくし文化賞 エッセイコンテスト」 日本福祉大学 ▽朝日新聞名古屋本社（名古屋市）	後援
6/22	日本リウマチ友の会創立65周年記念大会 日本リウマチ友の会 ▽福井県民ホール（福井市）	後援
6/12～15	第40回全国ろうあ連盟写真コンテスト 全日本ろうあ連盟 ▽いわて県民情報交流センターアイーナ（盛岡市）	後援
6/27、28	第74回関東聾学校陸上競技大会 関東聾学校体育連盟 ▽水戸信用金庫スタジアム（茨城県那珂市）	後援
7月	2025年頭頸部外科月間 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 ▽全国各地	後援
7/5	第62回心身障害問題を考える集い あさみどりの会 ▽ウインクあいち（名古屋市）	後援
7/6	第41回愛知県聴覚障害者大会 愛知県聴覚障害者協会 ▽名古屋文理大学文化フォーラム〈稲沢市民会館〉（愛知県稲沢市）	後援
7/22～ 8/29	第42回福祉施設絵画展 名古屋市社会的養育施設協議会ほか ▽島の駅 SHINOJIMA（愛知県南知多町）ほか	後援
7/27	日本在宅ケア・サミット 2025 日本在宅ケアアライアンス ▽東京大学伊藤国際学術研究センター（東京都文京区）	後援
7/29、30	第74回関東聾学校バレーボール大会 関東聾学校体育連盟 ▽横浜武道館（横浜市）	後援
8/22～24	第51回愛知心理療育キャンプ 愛知心理療育親の会 ▽愛知教育大学特別支援教育棟（愛知県刈谷市）ほか	後援
8/27～29	第76回全日本少年野球大会 こども家庭庁、全日本少年野球連盟ほか ▽コザしんきんスタジアム（沖縄県沖縄市）	後援
9月	第55回記念朗読録音奉仕者感謝行事 鉄道弘済会 ▽全国各地	後援
9/2	愛知県社会福祉大会 愛知県、愛知県社会福祉協議会ほか ▽IG Arena（名古屋市）	後援
9/4、5	全国子ども家庭養育支援地域ネットワークセミナー 熊本大会 全国子ども家庭養育支援研究会 ▽KKR ホテル熊本（熊本市）	後援
9/6	みんなネット京都大会（第17回全国精神保健福祉家族大会 in 京都） 全国精神保健福祉会連合会 ▽京都テルサ大ホール（京都市）ほか	後援
9/10～ 12/10	第73回手足の不自由な子どもを育てる運動 愛知県肢体不自由児協会 ▽愛知県内各地	後援

日程	催事	
	主催者 ▽会場	
9/14	第12回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 手話パフォーマンス甲子園実行委員会 ▽エースバック未来中心（鳥取県倉吉市）	後援
9/17	第60回東京都老人クラブ芸能大会 東京都老人クラブ連合会 ▽文京シビックホール（東京都文京区）	後援
9/20	2025 愛のサウンドチャリティーコンサート 光バンドSDGs フェスティバル 東京光の家 ▽ひの煉瓦ホール（東京都日野市）	後援
10/2	第35回国民の健康会議 全国公私病院連名 ▽日本教育会館一ツ橋ホール（東京都千代田区）	後援
10/11～13	第50回記念 全日本ろう社会人軟式野球大会 全日本ろう社会人軟式野球連盟 ▽サーティーフォー相模原球場ほか（神奈川県相模原市）	後援
10/16～18	サイトワールド 2025 NPO サイトワールド ▽すみだ産業会館サンライズホール（東京都墨田区）	後援
10/11、12	第12回成人発達障害支援学会東京大会 成人発達障害支援学会 ▽一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）	後援
10/17、18	きょうされん第48回全国大会 in 奈良 きょうされん ▽奈良県コンベンションセンター（奈良市）	後援
10/20～ 11/23	美術と文芸シリーズ 十河巖がつくる文化の庭―戦後の大阪朝日会館とアートプロデュース 関西学院大学博物館 ▽関西学院大学博物館（兵庫県西宮市）	後援
11/1～3	第48回日本スリーデーマーチ 日本スリーデーマーチ実行委員会 ▽比企丘陵一帯（埼玉県東松山市ほか）	後援
11/8	第22回本間一夫文化賞 日本点字図書館 ▽日本点字図書館（東京都新宿区）	後援
11/8、9	第10回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会東京大会 東京都手をつなぐ育成会 ▽日本工学院専門学校蒲田キャンパスほか（東京都大田区）	後援
11/9	第70回名古屋市身体障害者福祉大会 名古屋市身体障害者福祉連合会 ▽名古屋市中区役所ホール	後援
11/12	令和7年度全国社会福祉大会 全国社会福祉協議会 ▽浅草公会堂（東京都台東区）	後援
11/16	あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会 あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会 ▽名古屋市立大学病院	後援
11/22	第46回全国歯科保健大会 厚生労働省、日本歯科医師会ほか ▽島根県民会館（松江市）	後援
11/22～23	第47回全国視覚障害者将棋大会 日本視覚障害者団体連合 ▽日本視覚障害者センター（東京都新宿区）	協賛
12/1～3	第63回「弘済学園わたしたちが創る展」 鉄道弘済会 ▽JR 東京駅地下動輪の広場内（東京都千代田区）	後援
12/3～7	第44回肢体不自由児・者の美術展 日本肢体不自由児協会 ▽東京芸術劇場展示ギャラリー（東京都豊島区）	後援
12/6	第64回愛知県身体障害者福祉大会 愛知県身体障害者福祉団体連合会 ▽知立市文化会館（愛知県知立市）	後援
12/13	第23回本間一夫記念日本点字図書館チャリティーコンサート「室内楽の愉しみ」 日本点字図書館 ▽東京文化会館小ホール	後援
12/19	第74回東京都社会福祉大会 東京都、東京都社会福祉協議会ほか ▽東京都庁第一本庁舎（東京都新宿区）	後援
12/25	第20回チャリティーコンサート 浦和学院高等学校 ▽さいたま市文化センター大ホール	後援

日程	催事	
	主催者 ▽会場	
2/11～15	第 60 回名古屋市障害者作品展 名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会 ▽市民ギャラリー矢田（名古屋市東区）	後援
2/28	日本児童養護実践学会 総会・第 18 回研究大会 日本児童養護実践学会 ▽法政大学市ヶ谷キャンパス外堀校舎（東京都千代田区）	後援
3/1	第 44 回耳の日記念聴覚障害者と県民のつどい 愛知県聴覚障害者協会ほか ▽瀬戸市文化センター（愛知県瀬戸市）	後援
3/1～31	2026 年「耳鼻咽喉科月間」 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 ▽全国各地	後援
3/14	メンタルヘルスの集い（第 40 回日本精神保健会議） 日本精神衛生会 ▽晴和ホール（東京都新宿区）	後援
3/20	リカバリー全国フォーラム 2025 地域精神保健福祉機構 ▽オンライン	後援
3/28	川島成道チャリティプログラム 2026 川島成道ヴァイオリン・リサイタル 川島成道音楽事務所オフィス・ポー・トゥリー ▽浜離宮朝日ホール（東京都中央区）	後援

■大阪事務所

4/1～5/25	2025 年度大同生命厚生事業団「地域保健福祉研究助成」「シニアボランティア活動助成」「ビジネスパーソンボランティア活動助成」 大同生命厚生事業団 ▽大同生命大阪本社（大阪市）	後援
4/13、6/8、8/17	第 15 回全九州ろう社会人軟式野球大会 全九州ろう社会人軟式野球連盟 ▽熊本市水前寺野球場、福岡市香椎浜公園第二野球場、大牟田市延命球場（福岡県）	後援
4/13	「全国遷延性意識障害者・家族の会」関西ブロック講演会 全国遷延性意識障害者・家族の会 関西ブロック ▽エル・おおさか（大阪市）	後援
4/13、5/25	第 63 回北九州市障害者スポーツ大会 北九州市、北九州市身体障害者福祉協会ほか▽北九州市障害者スポーツセンター	後援
4/16～18	バリアフリー2025 大阪府社会福祉協議会、テレビ大阪、テレビ大阪エクスプロ ▽インテックス大阪（大阪市）	後援
5/28～6/2、6/5～10	第 59 回西部伝統工芸展 日本工芸会、同会西部支部、朝日新聞社 ▽福岡三越（福岡市）、鶴屋百貨店（熊本市）	協力
6/15	第 43 回日本ライトハウス チャリティコンサート 日本ライトハウス ▽ザ・シンフォニーホール（大阪市）	後援
7 月～2027/3	第 61 期電話相談ボランティア養成講座 関西いのちの電話 ▽大阪城南キリスト教会（大阪市）	後援
7/9～10	第 74 回近畿児童自立支援施設野球大会 滋賀県、近畿児童自立支援施設協議会 ▽甲賀市民スタジアム（滋賀県甲賀市）ほか	後援
8/7～11	第 42 回土と水と緑の学校 アジア協会アジア友の会、和歌山県新宮市、新宮市教育委員会、関西教育旅行株式会社 ▽和歌山県新宮市高田地区一帯など	後援
8/19～20	第 70 回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ 福岡県、福岡県肢体不自由児協会 ▽福岡県立少年自然の家「玄海の家」（宗像市）	共催 助成
9/20	第 6 回「茶の湯文化にふれる市民講座」 表千家同門会大阪支部 ▽朝日生命ホール（大阪市）	後援
9/28	第 62 回チャリティー大茶会 茶道裏千家淡交会北九州支部 ▽小倉井筒屋・パステルホール（北九州市）	後援
10/11～19	第 43 回スポーツフェスタ 2025 大阪 大阪知的障がい者スポーツ協会 ▽ヤンマースタジアム長居（大阪市）ほか	後援

日程	催事	
	主催者 ▽会場	
10/13	第 30 回大阪 YMCA インターナショナル・チャリティーラン 2025	後援
	大阪 YMCA、日本 YMCA 同盟、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区阪和部・中西部 ▽万博記念競技場特設コース（大阪府吹田市）	
10/19	ファインエリアフェスティバル 2025	後援
	ファインエリアフェスティバル実行委員会 ▽大阪府立障がい者交流促進センター（堺市）ほか	
10/21	第 75 回施設従事者激励会	後援
	大阪民間社会福祉事業従事者共済会 ▽シティプラザ大阪（大阪市）	
10/26	第 53 回全大阪ろうあ者文化祭	後援
	大阪聴力障害者協会、大阪市聴言障害者協会 ▽大阪市長居障がい者スポーツセンター	
11/10～ 12/10	第 73 回「手足の不自由な子どもを育てる運動」	後援
	福岡県肢体不自由児協会、日本肢体不自由児協会 ▽福岡県庁ほか	
11/11	第 59 回肢体不自由児者を支援するチャリティバザー	後援
	大阪府肢体不自由児者父母の会連合会 ▽大阪市教育会館	
11/16、 22～23	のびのびキャンプ	後援
	関西テレビ青少年育成事業団、アサヒキャンプ、大阪府青少年活動財団（ユースサービス大阪） ▽吉野宮滝野外学校（奈良県吉野町）	
11/25	第 23 回大阪救護施設合同文化事業	後援
	大阪救護施設合同文化事業運営委員会 ▽シティプラザ大阪	
11/26	令和 7 年度大阪府社会福祉大会	後援
	大阪府社会福祉協議会 ▽大阪国際交流センター大ホール（大阪市）	
12/4～6	第 2 回「素のままが、ええやん！♪」	後援
	素のままが、ええやん！♪実行委員会、豊中市、豊中市障害者啓発活動委員会 ▽豊中市立文化芸術センター（大阪府）	
12/21	認知症講演会	後援
	大阪認知症研究会 ▽千里ライフサイエンスセンター・ライフホール（大阪府豊中市）	
2026/ 1/16～20	第 45 回「障がいのある子どもに学ぶ」図工展	後援
	大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、大阪市小学校特別支援教育担任者会 ▽大阪市長居障がい者スポーツセンター	
3/2～8	第 44 回「肢体不自由児・者の美術展」（福岡地区）	後援
	福岡県肢体不自由児協会、日本肢体不自由児協会 ▽福岡県庁ほか	
3/7	令和 7 年度 合同求人説明会「“福祉のお仕事” 就職フェア in OSAKA～ふくしに会おう・つながるマルシェ～」	後援
	大阪府 ▽ OMM（大阪市）	

収支／寄付報告

2025 年度 事業活動計算書より金額を抜粋
(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

単位：円

サービス活動収益	217,063,831	サービス活動費用	365,112,332
事業収益		事業費用	
高齢者福祉事業	9,200	高齢者福祉事業	21,794,921
児童福祉事業	1,000,000	児童福祉事業	62,573,175
障害者福祉事業	0	障害者福祉事業	29,932,338
医療と公衆衛生事業	0	医療と公衆衛生事業	899,690
福祉啓発推進事業	0	福祉啓発推進事業	532,553
朝日ガイド事業	1,104,849	朝日ガイド事業	565,112
チャリティー事業	51,926,811	チャリティー事業	30,717,576
雑収益	28,728		
経常経費寄附金	162,994,243		
		人件費	141,416,579
		事務費	76,298,477
		減価償却費	381,911
サービス活動外収益	3,747,623	サービス活動外費用	6,460
受取利息配当金収益	3,747,623	その他のサービス活動外費用	6,460
経常増減差額	△ 144,307,338		

詳細は、事業団のホームページをご覧ください。

中期計画 2025 ～新しい福祉のつながりをめざして～

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

はじめに

「新型コロナウイルス」の感染拡大は、全世界の人々の生活様式を一変させました。社会情勢はもちろん社会福祉の領域における変化も、以前よりもスピードが増しています。

その中で、私たち社会福祉法人がめざすべきもの、達成すべき事業目標も、いま、大きな変革の時期を迎えております。地域を育み、福祉を支える人を育むことが、引き続き時代の要請となっていると考えます。

事業団はこれまでも、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みを継続しながら、事業団の運営を常に見直し、「だれもが安心して暮らせる社会」の実現をめざし、事業を展開することを心がけてまいりました。

事業展開においては、「コロナ禍にあっても、工夫を施して実施できる事業は可能な限り実現させる」という方針のもと、オンラインシステムなどを積極的に活用し、これまでは集客を前提としたチャリティー事業であっても、事業にかかわるすべての人たちの安全・安心を確保したうえで実施できるような仕組みを整えてきました。

このような情勢の中、このたび、従前の「中期計画 2020」の改定を行うことにしました。

2028年には事業団設立から100年を迎えます。めざすべき理念はそのままにしながらも、社会情勢に合わせた形にリニューアルすべく、新たな中期計画づくりに着手しました。

この間、職員全員が参加するミーティングを招集して意見交換などを重ね、今回、おおむね3年先までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

この中期計画 2025 では、今まで大切にしてきた私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を土台とし、これから先の時代に求められる福祉に対応すべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」の三つの軸の視点を大事にして、寄付者の皆さまの思いをつなぎ、新しいソーシャルアクションから社会を変えていく姿勢を明確にしました。

昨今の福祉を取り巻く環境の変化、特に従来の分野、対象ごとに実施する支援（縦割り）の福祉ではなく、複数の分野、世代にかかわる「全世代型福祉」への取り組みに力を入れ、今まで育んできた事業団の事業推進のノウハウを基に積極的に取り組んでまいります。

財務面では、積立資産の用途について、事業推進の理念にそって引き続き明確にしています。

また、今回の改定では、事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがいっそう高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。新しい働き方、寄付、広報などに関しても新しいアイデアを基に積極的に推進します。

1. 事業団の社会的使命

① ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞社の関連団体として、地域と人を育み、支援の輪をつなぐなかで、誰もが自分らしく安心して暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携しながらめざします。

このミッションステートメントには、複数の領域にかかわるような新しい福祉問題に向き合って、事業団にしかできない形での事業を積極的に進め、多くの方々の共感を得たいという思いが込められています。引き続き「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」の三つの軸の視点を大事にします。そして、ヤングケアラー等の支援や発達障がいへの対応など、困難な状況にいる人にエンパワメントを促すことのできる施策や、必要な人に必要な支援が届くよう、人や社会に働きかけていく熱意を大切にしたいと思います。

〈ミッションステートメント〉

先駆的に取り組んできた歴史を踏まえて
未来を見すえ、地域と人を育み、支援の
輪をつなぎ、お互いに支え合いたれどもが
安心して暮らせる社会をつくる

地域を育み支援
人を育み支援
支援の輪づくり

(チャリティー事業・収益事業)

支え合う
安心社会の実現

② 職員の活動モットー（事業への向き合い方）

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員の活動モットーをかかげます。実施する事業が生み出すその先の「つながり」「展開」を考え、また事業における事業団の「独自性」はどこにあるのかを考えながら、常に仕事を刷新する姿勢で取り組みます。また支援者・寄付者の皆様の視点を尊重し、立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、事業を進めます。

職員の活動モットー

- ・ 支援者・寄付者の思いをつなぐ
- ・ 時代に必要とされる仕事をめざす
- ・ 社会的な視点を意識する
- ・ 新たな課題の発見につとめる
- ・ スピード感をもって仕事にあたる
- ・ 効果、効率を追求する
- ・ 質の高い仕事をめざす
- ・ 常に仕事を刷新する
- ・ 持続可能な形をめざす
- ・ 当事者の声を大切にする

2. 事業展開

① 分野越境の視点

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。最新の福祉情勢を見つめながら、これまでの視点・役割にとらわれず、先進的な視点を持ち常に事業を見直し進めていく、「分野越境」の視点を大切にします。

②全世代型福祉

複数の世代にかかわる「全世代型福祉」への取り組みもその一つです。各事業は当事者、そして支援者の思いを大切に、また、常に見直し、新しいニーズに見合った形で事業を絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。

③独自性を意識

事業団にしかできない事業は何なのかを常に意識しながら、「企画集団」として独自の視点を持ち、旧来の児童、高齢者、障がい者といった福祉領域のサービスのみにとらわれることなく、時には分野を横断する概念を取り込み、発展的に展開します。

また企画立案の際には、事業の最終目標、終着点を必ず想定することで、継続ありきではなく常に事業を見直していくことを心がけます。そして、社会の変化の中で、事業目的を達成したと判断した場合には、事業の刷新を行います。

3. 拠点と要員

①全国規模で対応

事業団は22年度より東京事務所・大阪事務所の2拠点体制となりました。「全職員が一丸となって全国を対象に事業を運営していく」を念頭に、限られた人数の職員が力を発揮し、連携を進めていくことをめざし、オンラインシステムなども活用し、継続的に事務所にとられない事業の推進ができる体制づくりを進めます。今後も職員の交流を進め、地域性の高い事業をそれぞれの事業所で行う場面でも、両事務所が連携し進めていけるような環境を整えていきます。

大きな災害時のBCP対応なども見据えて、人と事業を分散させつつも、効率的な事業展開ができるよう引き続きつとめます。

②地域にも積極的に貢献

事業団が所在する東京都中央区や大阪市の地域で実施している地域福祉事業を大切に継続していきます。また地域の様々な団体などとの連携を継続しながら、今後考えられる新しいつながりの形などについても引き続き可能性を探っていきます。

③適正な人数配置

全国展開を継続する一方、それぞれの地域事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、両事業所に必要な人員を配置していきます。地域別事業費（費消事務所ベース）の割合なども参考にしながら、活動に必要な人員配置を行い、財務的に安定した運営をめざしていきます。

④新しい働き方

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。注力すべき事業に関する職員研修などを充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベーションしていきます。

また、コロナ禍で感染対策の一環として運用を開始した「在宅勤務」については、そのメリットを生かし、それぞれの職員が特性を生かし、多様な働き方ができるような方策を検討します。

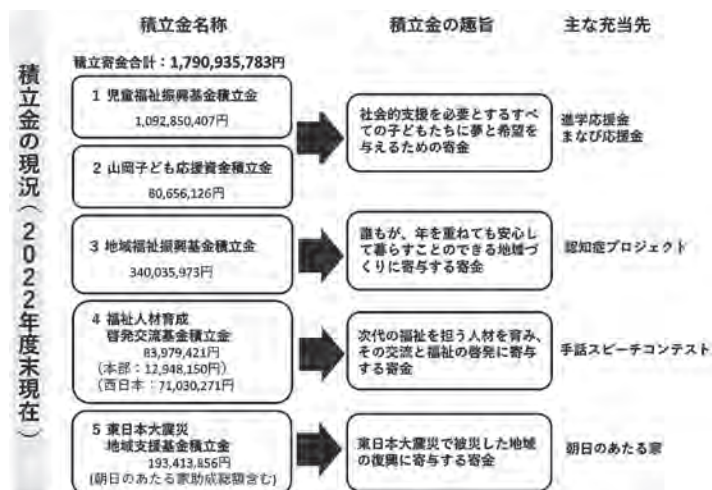
そのため必要なインフラ等の整備は今後も進めてまいります。

また育児や介護時の就業を支えるための方策や、現在 60 歳の定年制度についても併せて検討し環境整備に取り組みます。

4. 財務戦略・ガバナンス強化

①「次世代型積立金」

近年の福祉は、多分野・多領域にまたがる問題が複雑化しています。児童、障がい者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況があります。これに対応するために積立金を「児童福祉振興基金」「山岡子ども応援資金」「地域福祉振興基金」「福祉人材育成啓発交流基金」「東日本大震災地域支援基金」の5つに分けて設定しました。今後も、それぞれに該当する事業について各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。



②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は4～5億円程度で推移しています。今後、寄付金収入やチャリティー事業の収入が落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業を新たに開拓する必要があります。また、安全性に留意したうえで積立資産の運用を検討します。

寄付については、より多くの皆さまに共感をいただける事業を引き続き実施しながら、新規の寄付者を獲得できるように展開をしていきます。近年、スタートさせたクラウドファンディングや遺贈に関する取り組みを更に充実していきます。また、企業協賛や事業ごとの企業とのタイアップなどについても研究を進めていき、今までとは違った新しい支援をいただけるよう取り組んでいきます。

公益事業改革も引きつづき継続します。特にチャリティー事業については、収益の見通しなどを常に検証し、定期的に事業実施の継続について検討を行っていきます。実施するチャリティーが、その実施を通じ、新しい効果やつながり、新しい支援者を増やすことができているかどうか大切な判断基準としていきます。

③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底の要請はますます強まっています。事業の収支については、事業ごとのフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、厳密な管理をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、引き続き監査法人等による会計監査も実施します。加えて、職員が事業企画に注力でき、かつ効率的な経理処理を行うため、ペー

パーレス化などへの取り組みも進めていきます。

④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、前向きに議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また、現在だけでなく、将来考えられる事業経費や考えられるリスクなどについても、つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

5. 広報展開

SNS（ソーシャルネットワーク）も積極的に活用

事業団では、SNS上のPR活動も不可欠と考え、法人独自のホームページの運営に加え、インスタグラム、X、フェイスブックなどを活用しています。事業にかかわった方の紹介や思いの発信を行うことで、事業の趣旨などについて幅広くご理解をいただけると考えています。

SNSの特性である、「双方向のやりとり」についても、反応やつながりをダイレクトに感じ、つないでいくことができるものだとして理解しています。運営におけるルールなども必要に応じて見直ししながら、今後も積極的に活用していきます。

また、事業団の支援者の多くが購読する朝日新聞を使った広報・PRについても、効果的な新聞メディアの活用法などを研究し、多くの方々のご支援につながるような定期的な情報発信を検討したいと考えております。

おわりに

この中期計画は、現在の社会情勢の中で、事業団が目指すべきもの、大切にしたいものを職員全員で考えた内容になっています。この度の計画改定で、引き続き皆さまから求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね3年先までの方向性ということでまとめましたが、最新の福祉ニーズに応えるために修正が必要であれば、その期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きたいと思います。すべての職員の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに具現化され、新しい福祉のつながりをつくっていけるよう、さらに努力してまいります。

名 簿

理事・監事・評議員名簿

(2026 年 3 月 31 日現在、理事 6 人 監事 2 人 評議員 7 人)

理事長	小田桐則雄	朝日新聞社顧問
業務執行理事	是永 一好	朝日新聞厚生文化事業団理事
理 事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	服部万里子	服部メディカル研究所所長
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長
同	三国 治	元社会福祉法人こどもの国協会常務理事・園長
監 事	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会常務理事（業務執行理事）
同	横田 崇	横田崇税理士事務所代表
評議員	石渡 和実	東洋英和女学院大学名誉教授
同	大島 一博	筑波大学教授（協働大学院）
同	大塚 晃	一般社団法人日本発達障害ネットワーク副理事長
同	鈴木 一克	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	高橋 博則	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	松岡誠一郎	株式会社文海堂代表取締役会長
同	山田 優	朝日新聞社ブランド企画部部長代理兼 CSR 担当部長

職員名簿（2026 年 3 月 31 日現在）

【本部】（東京）

事務局長	笠原章宏
事業第一部長	中村宣人
事業第二部長兼	
西日本事業部長	宮前賢
管理担当部長	森浦浩
広報担当部長	河田有子
	菖蒲瑠香
	落合すが子
	勝見文子
	小倉玲子
	古屋厚子
	古海慶太
	松岡百合

【大阪事務所】

大阪事務所長	中谷和司
	藤本祐子
	森田英枝

2025

朝日の社会福祉

令和7年度事業報告

- ホームページ : <https://www.asahi-welfare.or.jp/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/asahiwelfare/>
- X : https://x.com/asahi_welfare
- Instagram : <https://www.instagram.com/asahiwelfare/>



■ 本部

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2 朝日新聞東京本社内
電話 03-5540-7446 ファクス 03-5565-1643

■ 大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島 2-3-18
電話 06-6201-8008 ファクス 06-6231-3004